

## 平成28年度第3回 松伏町子ども・子育て支援審議会 会議録

- 日時 : 平成29年3月24日(金) 午後1時半～3時半
- 場所 : 役場第二庁舎301会議室
- 出席委員 : 石井 貞人、岡田 直人、小島 朗、庄野 紀美子、松丸 すみえ、  
宮本 慶太、村松 文江、若盛 正城(8名) ※敬称略
- 欠席委員 : 根岸 明美、若盛 清美
- 事務局 : 梅原 秀人 福祉健康課長  
中野 祐子 福祉健康課主任  
峯岸 英子 保健センター保健師
- 議事 : 次第のとおり
- 配布資料 : 平成29年4月の保育所等の入所申込み状況について  
子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて  
利用者負担(保育料)の改定について  
子ども・子育て支援審議会の運営について

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

この会議は国の制度として開会していくものだが、全国的に温度が下がっている。委員の役割があいまいなところがあり、どうなるかわからないが、それぞれの思い、願いを込めてやってきている。来年度に向けて何を残していくかが大事。忌憚のない意見を出してほしい。

### 3 議事

#### (1) 平成29年4月の保育所等の入所申込み状況について

##### 【事務局から】

資料1について、平成28年10月現在の待機児童数は国基準で9人となった。平成29年4月入所については、入所保留者が24人いる状況。年齢が上がると保育所等に入りにくくなるためなのか、今年度は特に0歳児の申込みが多かった。

##### 【会長から】

子どもは家庭で育てていくことが第一義。親は仕事をする方がいいと思っているが預けられた子どもの気持ちも考える必要がある。0歳児の人格も大切にするためには本来はどうあったらいいのか、行政として何ができるのか、(この会議で)方向性がまとめたいかと思う。0～2歳児の育ちというのは非常に大切である。

##### 【委員から】

- ・発達課題を乳幼児のうちにしっかりクリアしていく必要があり、そのためには0～1歳に必要な支援が何かを考えていくべき。(岡田委員)
- ・その子の成長を待つてあげることが心にかけている。年齢ごとの生活を考えた上で、そ

の中で子どもがどう伸びていくか、大人がどう動くかを考えるような保育をしている。

(石井委員)

- ・子育て支援センターの相談は、早く保育園に入りたいという相談と、小さい子にどう接したらいいかわからないという両極の悩み相談がある。子どもとどう遊んだらいいか、公園デビューなどが上手にできない子育て仲間を上手につくれない親が多い。(庄野委員)
- ・子どもたちは初めて会った子でも知らない子でも遊ぶが、親同士がうまくいかなかったり、親優先になったりしてしまっていると思う。保育園は自分の子どももなかなか入所できず苦労した。仕事を決めて、申込みをしたらすぐに入所できるようにしてもらえたらいいと思う。(村松委員)
- ・幼稚園を運営していても、働いている母親がふえている実感はある。また、親同士がうまく付き合えていない、親中心になっているという印象。(宮本委員)
- ・きちんと考えて子育てしている親もいるが、中には食事など子育てがきちんとできていない親もいて、乳幼児の間は本当はお母さんと一緒にいたほうが言いと思うが、(保育園に入れてもらうことで)支援ができてよかったと思う子もいる。また、育休をとっている人からすると、入る場所がないのは問題(松丸委員)
- ・男性の労働力が減少傾向にあり、これから先、お母さんの就業率はどんどん高まっていく。その中で住みよい子育てしやすい地域にしていくためには、待機児童を減らして安心して子育てができる町にしてほしい。(小島委員)

## (2) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて

### 【事務局から】

- ・国通知「2. 見直し要否の基準」に町の状況を照らし合わせると次のようになる。

○平成28年4月1日現在実績/計画上の量の見込

	0歳児			1, 2歳児			3～5歳児		
	実績	見込		実績	見込		実績	見込	
1号							355	387	91.7%
2, 3号	19	15	<b>126.7%</b>	126	145	<b>86.9%</b>	252	241	104.5%

0歳児と、1, 2歳児について10%以上のかい離があり、原則として見直しが必要となるが、両年齢を合わせると次のようになる。

	0～2歳児		
	実績	見込	
3号	145	160	<b>90.6%</b>

0歳児の実績が見込みの110%以上となり、1, 2歳児の実績が見込みの90%以下になる理由として考えられるのは、新制度施行以降待機児童が出て、入所ににくい状況が続いているため、気持ちとしては1歳以降に預けてもいいと考えている保護者も、前倒しで0歳児で申込みをした可能性がある。0歳児の量の見込については、平成25年度に実施したニーズ調査から算出している。

町としては、現状が本来の保護者のニーズとは考えにくいいため、計画の見直しはせず、1～2歳児からの入所でも受け入れできる体制を引き続き維持していくこととしたい。また、待機児童が出ているもう一つの原因には保育士の不足が考えられ、施設自体が不足しているわけではないので、計画を見直し、新たな施設の整備を行うことも必要ないとする。

**【会長から】**

保育士の不足が原因というのは理由にならない。事務局案でよいが、何%になったら取り組むなどの記載も必要ではないかと思う。

**【委員から】**

事務局案でじゅうぶん説得力があると思う。

(3) 利用者負担（保育料）の改定について

**【事務局から】**

国の段階的無償化の取り組みにより、保育料を資料3のとおり減額する予定です。

**【会長から】**

国の言うとおりにやればよいということではなく、もっと町独自で考えることも必要。

**【事務局から補足】**

保育所等利用に係る保育料については、国基準より低く保育料を設定しており、その分は町の財源で負担しています。

(4) 子ども・子育て支援審議会の運営について

**【会長から】**

各委員、思うところがあればぜひ発言してほしい。

**【委員から】**

- ・ 保育園を運営していく上では、子どもの育ちを守っていきたいと思っている。行政は待機児童を減らしたい、バランスが難しい。1歳児担当保育士への補助金（1歳児1：4で保育をした場合に町を通じ、埼玉県から補助される）について、平成28年度については、1歳児の待機児童解消のため、町は実施しないと事前に聞いていた。先月の保育所長会議で平成29年度も実施しないと聞いてとても驚いた。実際は1歳児を1：6で見ることは難しく、園の持ち出しで保育士をふやして対応している状況。また、1歳児を1：6とした場合、2歳児（1：6）の受け入れが全くできず、結局待機児童が出る状況になるのではないか。1：4の補助金を停止して、待機児童を減らすという町の方針について再検討してほしい。（石井委員）

（会長から上記の意見に補足）埼玉県のやっている1歳児1：4というのは、大変進んでいる画期的な事業、これを廃止するというのは子どもの育ちとは逆行している。今までやってきたことでもあるし、相手の子どもにとってどうかということを考えるべき。

- ・ 小学校の先生は1日11時間、中学校の先生は1日12時間学校にいる。教員は時間外手当がつかない。助けられていることが非常に多い。（岡田委員）

- ・地域子育て支援センターと、保育園、幼稚園、認定こども園が連携してやれることがあるとよいと思う。この会議に出て視野が広がった。(庄野委員)
- ・広報まつぶしの「子育て情報便」のページを、保健センターの健診時に配るなど、周知をしていろいろな園に足を運んでもらえるようにできたらよいのではないか。(松丸委員)
- ・保育施設をつくるより、乳幼児に手当を出すほうがお金は安く済む。委員に対し情報を求めるのではなく、町としてアンテナを張り、こんなものがあるというデータや情報を事務局から発信してほしい。インターネットをやっているとどんどん情報がでる。可能ならがんばってみてほしい。(若盛会長)

#### 4 その他

##### 【事務局から】

次回の子ども・子育て支援審議会は委員を改変し、8月頃の開催を予定しています。

#### 5 閉会

##### 【岡田副会長から】

2年間、審議会の中で、若盛会長やその他の委員の方々から様々な話が聞けて大変勉強になった。